

【別紙様式3】

再評価実施事業調査書

番号	1	事業名	道路事業		路線又は箇所名等		一般国道464号 北千葉道路Ⅱ期		
事業所管課		道路整備課		事業主体			千葉県		
事業化年度	平成19年度	用地着手年度	平成21年度	工事着手年度	平成28年度	工事終了(認可)年度	令和11年度	再評価の理由	再々評価
費用便益比 B/C	1.8 (2.7)	総費用	360億円 (241億円)	総便益	639億円 (639億円)	基準年	令和2年度	供用開始 年度	令和12年度

※上段：全体事業 下段（ ）：残事業

【事業概要】

一般国道464号北千葉道路は、外環道と成田空港を最短で結び、首都圏の国際競争力を強化するとともに、災害時における緊急輸送道路として機能する延長約43kmの重要な道路である。

北千葉道路Ⅱ期は、北千葉道路のうち、成田市押畑から成田市大山まで約3.7km区間を整備するもので、並行する国道408号の交通の円滑化、安全性の確保、物流の効率化等にも寄与するバイパス事業である。

- ・総事業費：421億円
- ・事業延長：L=3.7km
- ・事業期間：平成19年度～令和11年度

【事業の進捗状況】（令和2年度末見込み）

	全体計画(億円)	投資事業費(億円)	残事業費(億円)	進捗率(%)
全体	421	110	311	26%

【社会経済情勢等】

- ・成田市街地の国道408号現道は主要渋滞箇所4箇所が連担しており、土屋交差点をはじめとして交通混雑が発生している。
- ・国道408号の土屋交差点から成田山裏門入口交差点間では、死傷事故率が512件/億台キロとなっており、千葉県全体の死傷事故率の約11倍であり、事故の危険性が高い状態にある。
- ・平成31年3月までに北千葉道路Ⅰ期(印西市若萩～成田市押畑)が暫定2車線で開通するとともに、成田空港は2028年度末を目指し、空港機能強化を進めるなど、北千葉道路の交通需要は今後も増加することが期待されている。

【対応方針(案)】

継続

費用便益比(B/C)が事業全体で1.8、残事業で2.7であることから、費用対効果が見込まれる。

整備効果として、通過交通と内々交通の適切な機能分担による成田市街地の交通の円滑化や、交通混雑緩和による安全性の向上、移動時間の短縮や定時性の確保による物流の効率化、成田空港と広域防災拠点間を結ぶ緊急輸送道路の強化による防災機能の向上などが期待される。

着実に事業を推進していることから、事業を継続し、効果の早期発現を目指す。

【別紙様式 5】

再評価事業に関する調書

番 号	1	事 業 名	道路事業	路線又は箇所名等	一般国道 464 号 北千葉道路Ⅱ期
事業化年度	平成 19 度	用地着手年度	平成 21 年度	工事着手年度	平成 29 年度
【再評価（H27 年度）の概要】					
事前評価実施年度 （基準年）	平成 27 年度	供用開 始年度	平成 42 年度 （令和 12 年度）	対応方針	継続
B / C	1.7 (1.9)	総費用	336 億円 (299 億円)	総便益	556 億円 (556 億円)
（※上段：全体事業 下段（ ）：残事業）					
事前評価時の委員会の意見及び当時の状況 ・継続することが妥当である。					
再評価時の進捗状況及び再評価時想定の 5 年後の進捗状況					
	計 画	進捗状況 (H27 末見込み)	5 年後の想定進捗状況		
全体事業費	421.3 億円	35.9 億円 (9%)	254.1 億円 (60%)		
用地取得面積	156,102m ²	139,418m ² (89%)	156,102m ² (100%)		
供用面積 (延長)	3,700m	0m (0%)	0m (0%)		
【再々評価（R2 年度）の概要】					
再評価実施年度 （基準年）	令和 2 年度	供用開 始年度	令和 12 年度	対応方針	継続
B / C	1.8 (2.7)	総費用	360 億円 (241 億円)	総便益	639 億円 (639 億円)
（※上段：全体事業 下段（ ）：残事業）					
現在の進捗状況					
	計 画	進捗状況 (令和 2 年度末)			
全体事業費	421.3 億円	110.2 億円 (26%)			
用地取得面積	156,102m ²	155,428m ² (99%)			
供用面積 (延長)	3,700m	0m (0%)			
再評価後の 経過 及び 処理状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度 再評価(継続が妥当である) ・工事、用地交渉を継続実施 				